

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：バイオマス(木屑)への  
燃料転換を伴うボイラー設備更新事業

排出削減事業者名：

株式会社サイプレス・スナダヤ

排出削減事業共同実施者名：

ES カーボンクレジット合同会社

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社サイプレス・スナダヤ
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	株式会社サイプレス・スナダヤ
住所	愛媛県西条市小松町新屋敷甲 1171-1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	ES カーボンクレジット合同会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

バイオマス(木屑)への燃料転換を伴うボイラー設備更新事業

### 2.2 排出削減事業の目的

本事業では、製品乾燥用として使用している主力のボイラーを A 重油ボイラーから木屑焚きボイラーに変更する。木屑焚きボイラーの燃料として、集成材（土台・柱）製造工程上発生し、これまで産業廃棄物として処分する代わりに電力会社や農家等へ提供していた木屑を使用することで、A 重油の使用量を減少させ CO2 排出量の削減を図るものである。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

製品乾燥用として使用している A 重油を燃料とする重油焚きボイラーから木屑を燃料とするバイオマスボイラーへ更新し、乾燥機（14 台）に対して空調を行い、A 重油の使用量を削減して CO2 排出量の削減を行うことが出来る。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

2012 年 11 月に乾燥機（木屑焚きボイラーからの蒸気供給有）を 3 台増設したが、この乾燥機で乾燥した生産量は今回の活動量として算入していない。ただし、事業実施後の排出量については、従前のバックアップボイラー（4 台）と増設した乾燥機に付属する A 重油ボイラー 2 台それぞれの A 重油使用量を把握することができないため、全量を従前のバックアップボイラー使用量として算定した。

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2008年 6月 10日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年 4月 1日 ～2016年 5月 31日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
004	空調設備の更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
ベースラインエネルギー 使用量	製品生産量	エネルギー使用量
		生産量
電力量 (補助電源)	設備稼働時間	設備稼働時間

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

事業実施後のバイオマス燃料使用量の計測は困難であり、また、前後設備の構造上の違いから実施後設備では生産に使用する蒸気・熱だけを計測することが不可能なため、方法論 004にて活動量を採用する。

当該設備は製品を生産する都度、乾燥処理を行うため、エネルギー使用量は、生産量に連動することから、生産量を活動量とする。

事業実施前後の活動量は製品生産量により算出する。

#### 4.3 事業の範囲 (バウンダリー)

既存設備 (重油ボイラー) は、バイオマスボイラーが灰処理等のメンテナンスの際や非常時の運転停止時にバックアップ用として使用する。

本事業のバウンダリーは、燃料供給設備を含み、製品乾燥用として使用する新設備 (バイオマスボイラー) 及びバックアップ用の既存設備により空調が行われる乾燥機 (14 台) を範囲とする。

## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更あ る場合、) 変更理由
F A 重油,BL	事業実施前燃料使用量(A 重油)	kL	464.54	燃料供給会社からの請求書	
設備稼働時間	事業実施後設備の稼働時間	h	25,022	計測データより算定	
E L Pj	事業実施後設備で使用する電力 使用量	kWh	1,360,321	設備稼働時間×設備定格動力	
F A 重油,Pj	事業実施後燃料使用量 (A 重 油：バックアップ)	kL	422.2	燃料供給会社からの給油表	
H V A 重油,BL	事業実施前燃料の単位発熱量(A 重油)	GJ/kL	38.9	デフォルト値	
H V A 重油,Pj	事業実施後燃料の単位発熱量(A 重油：バックアップ)	GJ/kL	38.9	デフォルト値	
$\alpha$ BL	事業実施前の活動量 (生産量)	m <sup>3</sup>	30,066.5	計測データより算定	
$\beta$ Pj	事業実施後の活動量 (生産量)	m <sup>3</sup>	105,599.5	計測データより算定	
C F A 重油,BL	事業実施前燃料 (A 重油) の単 位発熱量あたりの炭素排出係数	t-CO <sub>2</sub> /G J	0.0708	デフォルト値	
C F A 重油,Pj	事業実施前燃料 (A 重油) の単 位発熱量あたりの炭素排出係数	t-CO <sub>2</sub> /G J	0.0708	デフォルト値	
C F electricity	事業実施後設備で使用する電力 の炭素排出係数 (全電源)	t-CO <sub>2</sub> /k wh	0.000531 0.000554 0.000570	デフォルト値 (H27 年度) (H26 年度) (H25 年度)	

## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
422.2[kL]	38.9[GJ/kL]	0.0708[t-CO2/GJ]	1,162.8
計 1,360,321[kWh]			749.2
496,950[kWh]	平成 27 年度以降	0.000531[t-CO2/kWh]	
428,124[kWh]	平成 26 年度	0.000554[t-CO2/kWh]	
435,246[kWh]	平成 25 年度	0.000570[t-CO2/kWh]	
EM <sub>PJ</sub>			1,912.0

### 6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
464.54[kL]	38.9[GJ/kL]	0.0708[t-CO2/GJ]	4,493.5
前 30,066.5[m3]			
後 105,599.5[m3]			
EM <sub>BL</sub>			4,493.5

### 6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	削減量
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	4,493.5
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	1,912.0
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	2,581

## 7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースラインー実績 (①ー②)

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

## 9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013年4月1日 ~ 2016年5月31日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			
バイオマス利用量	t	—	47,044.1	1,213.7